

きであるが、それらの調査者が選んで調査した地点が異なっている可能性がある。それは検討会がなかったことによる。⇒検討会が行えないような予算規模であったのではないか。（静岡）

- ・重点モニタリング調査の鳥類部門を担当し、全体の報告書の作成には加わっていないが、総論部分の鳥類に関する事項の中に誤った記述があった。（静岡）
- ・調査を大学の先生等の専門家に頼ろうとするのみでは適した調査時期に実施できないことが多い。（兵庫）
- ・本県では、調査日程上、各調査項目に応じて3社のコンサルタント会社と委託契約を結んだ。このため、調査日程のスケジュールの調整や調査結果の取りまとめに苦慮した。各調査項目のつながりを検討するには、1つの調査団体に委託して、取りまとめを行う方が良いと思った。（兵庫）
- ・委託契約等の事務手続きの遅れから調査者にスケジュール的にも負担をかけた。（沖縄）

2 > 部分的にあった：11

- ・生物のみならず、地形・地質等多くの分野に調査項目が及ぶため、人材が足りなかった。（北海道）
- ・調査分野が広く、各分野の調査を全て専門家に依頼するには予算に無理があった。（北海道）
- ・絶対的な専門家の数が少ないのでしかたないが、分類群ごとに複数の専門家が調査に当たるのが望ましい。（静岡）
- ・要領等が示された時期が遅かった。（静岡）
- ・“鳥類群集の種構成に関する調査”の調査法が平成3年と4年で大きく変更したため取りまぐれにくくなった。（兵庫）
- ・土壌生物の専門スタッフがいなかったため、現代調査は大学の専門家にお願いすることになったが、スケジュール等の調整に時間がかかった（専門家が少ない）。（沖縄）
- ・調査範囲、調査地点等の選定には、調査検討会を設置することにより、調査の精度をより向上することができたと思われる。（沖縄）
- ・調査範囲、調査地点等の選定では、調査検討委員会を設置することにより、調査の精度をより向上されることが出来ると思われる。（沖縄）
- ・調査範囲、地点等の選定は、検討会を設置した方が望ましい。（沖縄）
- ・調査範囲、調査地点等の選定には、調査検討会を設置することにより、調査の精度をより向上することができるものと思われる。（沖縄）
- ・調査について、吟味、検討する機関がなく、精度の向上を計れなかった。（沖縄）

3 > なかった：16

質問5 今後調査を継続する上で地元の自然研究・観察団体との連携が考えられますが、その必要性はあると思われますか？

1 > 必要である：17

- ・すでに野鳥の会（ウトナイ湖サンクチュアリ）に協力いただいている。調査地域で以前から活動されており、多くの情報を得ることができるとともに、その地域の保全にも役

- 立つ。(北海道)
- ・今回も「野鳥の会」に調査を依頼した。(北海道)
 - ・前記したように調査に問われる人員が数少なく、十分な調査を実施するためには必要であるとする。(北海道)
 - ・調査区域内には(財)日本野鳥の会のウトナイ湖サンクチュアリ「ネイチャーセンター」があり、ここの活動により得られるデータは貴重なものである(今回のデータもここのチーフ・レンジャーに調査を依頼して得られたものである)。今後も連携が続けられる可能性は大きいと思う。(北海道)
 - ・必要である。(静岡)
 - ・地元、野鳥の会と連携し、情報を得ることは重要だと思う。(静岡)
 - ・必要であると考えられるが、全ての分野について各々専門家がいることは少ないのではないか。また調査項目の一部には全国的にも専門家が少ないので見つかったとしても、多忙であることがあって、調査をお願いすることが難しいこともあるだろう。(兵庫)
 - ・地元の有利さを生かした地元研究者のデータは、有効に使用できる可能性があるが、そのデータ精度には、気を配る必要があると思う。(兵庫)
 - ・調査地域の地理や生物相等に精通している団体があれば、調査期間内では確認できなかった希少な種類についても把握している点が多いだろうから必要性は十分にあると思う。(兵庫)
 - ・各調査項目とも現地調査以外に聞き取り調査によるデータも必要であったため、地元の自然団体等との連携は必要である。またその可能性についても、環境庁の調査であると説明すれば可能である。(兵庫)
 - ・対象地域の過去の土地利用など、文献からは得られない情報を得られる。(兵庫)
 - ・経時的変化状況等の情報が得られる。(沖縄)
 - ・調査期間は限られており調査対象地域の状況を把握する意味でも地元の自然研究家、観察団体の協力が必要ではないか。(沖縄)
 - ・地元の研究家、団体等の協力は調査効率の向上、また、調査精度の向上に大きく寄与するものと思われる。団体等との連携は可能であると思われます。(沖縄)
 - ・地元の研究家、団体等の協力は調査精度の向上、調査効率の向上に大きく寄与するものと思われる。(沖縄)
 - ・受託者の調査期間(または延べ調査時間)は、ある意味では制限があり、調査対象地域の状況を把握している地元の関係者及び団体の協力は調査効率の向上と、精度の向上に大きく寄与するものと考えられる。また、その関係者との連携は可能と考えられる。(沖縄)
 - ・地元において研究・観察団体が活動しているのであれば、聞き取り調査を実施するなど、調査の参考にしたい。(沖縄)

2 > 必要でない：11

- ・純粋に調査の目的を達するため必要であれば連携すべきであるが、それ以外の理由で連携する必要はない。(埼玉：2)
- ・特に改めて連携を求めなくとも実質上は相談あるいは分担している。(静岡)
- ・一貫性を欠く可能性がある。(静岡)
- ・巣箱の設置や巡回などで協力は得られると思うが、一定程度の精度が要求される項目は

難しいと思う。(沖縄)

- ・特に必要とは思わないが、聞き取り調査は参考にしたい。(沖縄)
- ・特に必要とは思わないが、地元において研究・観察団体が活動しているのであれば、聞き取り等において調査の参考にしたい。(沖縄)
- ・その地域には観察対象としている団体が無い。(沖縄)
- ・必要でない。(静岡)(沖縄2)

3 > わからない: 1

4 > その他: 4

- ・より詳細な継年変化を見るためには、必要なことと考える。ただし、調査能力が相当レベルあることが求められるため、連携してそれなりの効果が生じるかどうかは疑問である。(静岡)
- ・地元とは県全体か、調査周辺か不明。対象地を継続して調査している人は見当たらない。むしろ、予算化して、うすくても継続調査に力点を置き、変化や周辺の状況を把握させたらどうか。(静岡)
- ・継続的に多くの調査回数を必要とし、定点的な調査を行う場合等について、データの管理が適正に行われるならば「連携」の可能性について否定できないが、「連携」必要性についてはどちらとも言えない。(兵庫)

VI 予算

質問1 全体予算と項目数や労力などとのバランスは適当でしたか？

1 > 適当であった: 1

2 > まあまあ適当であった: 5

3 > 適当ではなかった: 23

- ・マニュアルの内容に適合した予算配分をしていただきたい。(北海道)
- ・項目数が多く労力の割に予算が少なすぎる。特に消耗品費(楽箱・航空写真など)が足りない。(北海道)
- ・十分な調査体制を保障する予算ではない。とくに調査依頼の費用、需要費(楽箱、航空写真等の購入)が不足した。(北海道)
- ・記憶が定かではないが、通常の委託調査の精算と比較すると予算はかなり少なかった。(埼玉)
- ・調査内容に対しての予算額は、かなり不足していると思われる。(静岡)
- ・自然環境調査はボランティアでできることではない。(静岡)
- ・全体予算については把握していないので回答できない。(静岡)
- ・項目数、労力に比して、予算が著しくない。(静岡)
- ・全体予算の不足。(静岡)
- ・今回の調査は会社として実施したものであるため、大幅な赤字であった。また、個人で実施したとしても動物相調査の費用は項目数に比して少ないのではないかと思う。(兵庫)

- ・鳥類の巣箱設置等、大変な労力を要する割に、その予算は少なすぎると思う。生態系を把握するような、大規模な調査にはそれなりの予算が必要なのでは。（兵庫）
- ・動物相調査の費用は項目数に比べて少ないと思われる。（兵庫）
- ・項目数、労力にくらべ、予算が非常に少なかった。（兵庫）
- ・フィールド調査を再委託するのに、予算がやや少なかった。（兵庫）
- ・実際の現地の調査日数や情報の整理項目は調査のスタート当初とは大きくかけはなれており業務量に対して予算は相当少ないものであった。（沖縄）
- ・調査日数、人員とりまとめの業務量に対して予算が少なかった。（沖縄）
- ・作業量に比べて予算が小規模であると思う。（沖縄）
- ・調査日数、人員、とりまとめの業務量に対して予算が少ない（沖縄）
- ・調査人員、日数、とりまとめ事務のわりには予算は少ないと思われる。（沖縄）
- ・調査日数、人員、取りまとめの業務量に対して予算が少なかった。（沖縄）
- ・県の調査委託の基準を満たすことができず、調査者に過重な負担をかけた。（沖縄）
- ・調査日数、人員、取りまとめの業務量に対して予算が少なかった。（沖縄）

4 > その他：1

質問2 特に担当部分の予算は適当でしたか？

1 > 適当であった：1

2 > まあまあ適当であった：6

3 > 適当ではなかった：21

- ・予算内での調査実施は、厳しい状況である。（北海道）
- ・消耗品費が足りず苦勞した。（北海道）
- ・とくに需要費（航空写真、化学分析用具、文房具 etc）が不足した。（北海道）
- ・前述したが、検討会も十分に開く程なかったのではないか。また、結果を総合的に判断する会も開く必要があったろう。人を多く頼めば、もっと細部に渡る調査ができたと思われる。特に文献に頼る分が多く、例えば、動物の分布は年とともに大きく変化することが考えられ、いつまでも文献に頼るべきではない。実際に予算をとり、現地で長期、広域にわたり調査すべきであろう。（静岡）
- ・シジュウカラの巣箱の作製、設置は一人ではできないので手伝ってもらいが必要があり、予算として充分ではなかった。また、巣箱の調査そのものが、内容が細かいため、少人数で行うには無理がある。（静岡）
- ・調査日数、内業数が大幅に予算を越えた。（静岡）
- ・委託費の枠内では、必要最低限の調査も行えない（調査に係わる人件費の見積りが小さ過ぎるのではないか）。（兵庫）
- ・今回の調査は会社として実施したものであるため、大幅な赤字であった。また、個人で実施したとしても動物相調査の費用は項目数に比して少ないのではないかと思う。（兵庫）
- ・鳥類の巣箱設置等、大変な労力を要する割に、その予算は少なすぎると思う。生態系を把握するような、大規模な調査にはそれなりの予算が必要なのでは。（兵庫）

- ・動物相調査の費用は項目数に比べて少ないと思われる。(兵庫)
- ・重点モニタリング調査は、現地調査を主体に行ったため、専門的知識のある各コンサルタントへの委託により行った。しかしながら、各コンサルタントも、モニタリング地域の生態を把握するには、現地調査を多くする必要を生じ、県との委託額から判断しても、かなり赤字が出ている状況であった。(兵庫)
- ・フィールド調査を再委託するのに、予算がやや少なかった。(兵庫)
- ・全体予算が少ないので担当部分の予算も限られており、調査日数が労力に対して少ないと思われる。(沖縄)
- ・調査日数、人員とりまとめの業務量に対して予算が少なかった。(沖縄)
- ・適当ではなかった。(静岡)(沖縄)
- ・調査日数、人員、とりまとめの業務量に対して予算が少ない。(沖縄)
- ・調査人員、日数、とりまとめ事務のわりには予算は少ないと思われる。(沖縄)
- ・調査日数、人員、取りまとめの業務量に対して予算が少なかった。(沖縄)
- ・県の調査委託の基準を満たすことができず、調査者に過重な負担をかけた。(沖縄)
- ・調査日数、人員、取りまとめの業務量に対して予算が少なかった。(沖縄)

環境庁請負
第4回自然環境保全基礎調査
生態系総合モニタリング調査報告書

平成6(1994)年3月
環境庁自然保護局
業務請負者：財団法人日本自然保護協会
東京都港区虎ノ門2-8-1
虎ノ門電気ビル4F

